













《 第 8 0 回景況アンケート調査(平成22年6月調査) 》

とよしん景況天気図

業種	調査時期	現 状	見通し
		22/4 ~ 22/6	22/7 ~ 22/9
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小 売 業			
サービス業			
建 設 業			

《 記号の意味 》

DI 数値	30 以上	良 い	
DI 数値	10 以上 ~ 30 未満	やや良い	
DI 数値	10 未満 ~ 10 未満	普 通	
DI 数値	10 以下 ~ 30 未満	やや悪い	
DI 数値	30 以下	悪 い	

《 DI の意味 》

DI とは、デフュージョン・インデックス(拡散指数)の略で、増加(良い)企業の割合から減少(悪い)企業の割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

## 要 旨

『 当地区の景況は、改善傾向にあるものの、停滞感が強まっている。』

当期(4~6月)のDIは、業況 23.1(前期比+1.8ポイント)、売上 16.7(同+1.1ポイント)、収益 19.4(同+2.6ポイント)と、全てのDIにおいて前回を上回ったものの、依然厳しい状況が続いている。

前年同期比では、業況+17.1ポイント、売上+23.2ポイント、収益+18.0ポイントと全てのDIにおいて上回っている。一方、来期見通し(7~9月)については、業況 16.2(当期比+6.9ポイント)、売上 10.8(同+5.9ポイント)、収益 11.4(同+8.0ポイント)と全てのDIにおいて改善を示しており、製造業を中心に緩やかな改善傾向にあるものの、停滞感が強まっている。

### 業況DI

最近3ヵ月の業況DIは、総合 23.1と前期比+1.8ポイント改善した。(前年同期比+17.1ポイント)。業種別では、製造業 15.7(前期比+27.7ポイント)、卸売業 32.2(同 20.5ポイント)、小売業 26.4(同 8.1ポイント)、サービス業 20.0(同 6.7ポイント)、建設業 52.5(同 13.1ポイント)と製造業を除き低下した。先行き(7~9月)は、製造業(+3.9ポイント)、卸売業(+11.9ポイント)、小売業(+15.1ポイント)、サービス業(+7.6ポイント)、建設業(+12.1ポイント)と全業種で改善の見通し。総合では 16.2と当期比+6.9ポイント(前年同期比+12.3ポイント)を示している。

### 売上DI

最近3ヵ月の売上DIは、総合 16.7と前期比+1.1ポイント改善した。(前年同期比+23.2ポイント)。業種別では、製造業 6.5(前期比+19.8ポイント)、卸売業 32.2(同 17.2ポイント)、小売業 13.2(同 3.2ポイント)、サービス業 15.2(同 8.5ポイント)、建設業 45.5(同 10.1ポイント)と製造業を除き低下した。先行き(7~9月)は、製造業(+3.2ポイント)、卸売業(+20.3ポイント)、小売業(+1.9ポイント)、サービス業(+1.9ポイント)、建設業(+12.2ポイント)と全業種で改善の見通し。総合では 10.8と当期比+5.9ポイント(前年同期比+14.3ポイント)を示している。

### 収益DI

最近3ヵ月の収益DIは、総合 19.4と前期比+2.6ポイント改善した。(前年同期比+18.0ポイント)。業種別では、製造業 10.5(前期比+26.3ポイント)、卸売業 22.0(同 2.0ポイント)、小売業 18.9(同 8.9ポイント)、サービス業 21.9(同 8.6ポイント)、建設業 42.4(同 7.0ポイント)と製造業を除き低下した。先行き(7~9月)は、製造業(+5.3ポイント)、卸売業(+1.7ポイント)、小売業(+7.6ポイント)、サービス業(+12.4ポイント)、建設業(+15.1ポイント)と全業種で改善の見通し。総合では 11.4と当期比+8.0ポイント(前年同期比+9.9ポイント)を示している。

# とよしん景況調査

## 《 調査要領 》

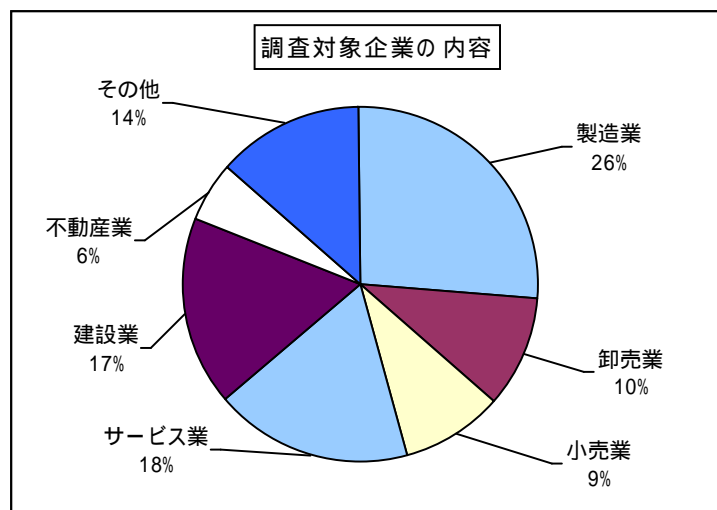
**調査対象時期** 平成22年 4月 ~ 6月 実績  
平成22年 7月 ~ 9月 見通し

**調査方法** 聞き取りアンケート調査

**調査対象企業** 当金庫取引先 581社

### 分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(DI・判断指数)を中心に分析しています。



### DIの推移

<業況>

(数値はDI数値)

業種	平成21年		平成22年		平成22年	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
総合	40.2	28.5	22.2	24.9	23.1	16.2
製造業	59.3	32.2	31.1	43.4	15.7	11.8
卸売業	35.4	29.0	19.7	11.7	32.2	20.3
小売業	25.9	21.1	19.0	18.3	26.4	11.3
サービス業	27.9	17.5	5.8	13.3	20.0	12.4
建設業	48.1	47.1	38.3	39.4	52.5	40.4

<売上>

(数値はDI数値)

業種	平成21年		平成22年		平成22年	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
総合	39.9	25.1	11.3	17.8	16.7	10.8
製造業	60.7	24.7	18.9	26.3	6.5	3.3
卸売業	27.7	24.2	16.4	15.0	32.2	11.9
小売業	20.7	24.6	8.6	10.0	13.2	11.3
サービス業	30.1	16.5	9.6	6.7	15.2	13.3
建設業	50.0	47.1	29.9	35.4	45.5	33.3

<収益>

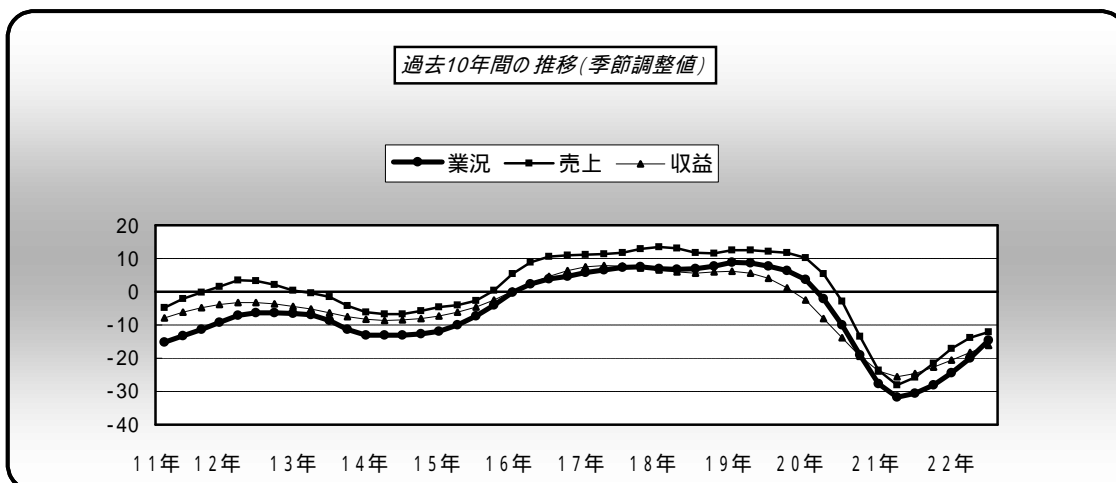
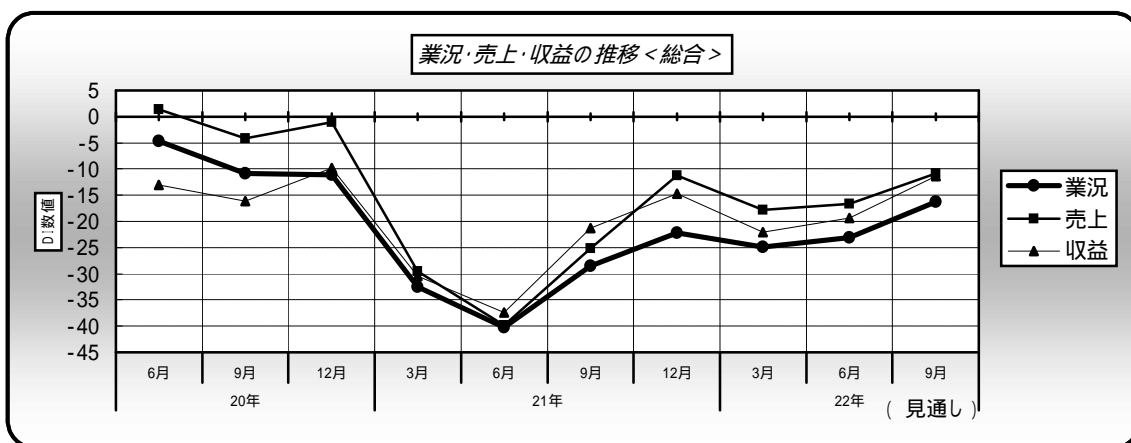
(数値はDI数値)

業種	平成21年		平成22年		平成22年	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
総合	37.4	21.3	14.7	22.0	19.4	11.4
製造業	58.3	24.7	26.5	36.8	10.5	5.2
卸売業	24.6	24.2	16.4	20.0	22.0	20.3
小売業	25.9	15.8	3.4	10.0	18.9	11.3
サービス業	26.0	16.5	2.9	13.3	21.9	9.5
建設業	43.4	33.7	39.3	35.4	42.4	27.3

# 総 合

当期(4~6月)は、前期比で業況DI +1.8ポイント、売上DI +1.1ポイント、収益DI +2.6ポイントと全てのDIにおいて改善を示した。来期見通し(7~9月)は、業況、売上、収益DIの全てにおいて改善を示している。

業種別にみると、製造業では自動車関連については、ハイブリッド車や減税対象車の販売は安定している。9月までの受注は確保しているが、発注企業は、技術精度の高さより価格を重視しており、新興国の台頭で競争に拍車がかかっている。卸売業では木材卸については、住宅着工件数は増加傾向にあるものの大規模な分譲マンションの着工が多く、木材需要は減少している。需要は伸びない状況にあり、価格の上昇は限定的となっている。小売業では家電販売については、エコポイント制度の効果が薄れてきたことなどから、売上は伸び悩んでいる。大型連休の間は一時的な売上増加があったものの、その後は例年に比べ、消費動向は低調に推移している。サービス業では医療・保健衛生業については、4月からの再診料引き上げの実施により、患者の受診回数減少の影響がみられたものの、医療機関にとっては、医業収入の増加となった。建設業では公共工事については、例年に比べ減少傾向で、一段と厳しい状況に加え、価格競争はさらに激化し、収益面は厳しい状況となっている。民間工事については、工場等の受注が減少し、個人住宅についても、増改築や耐震、補強工事等の小口工事が中心となっている。

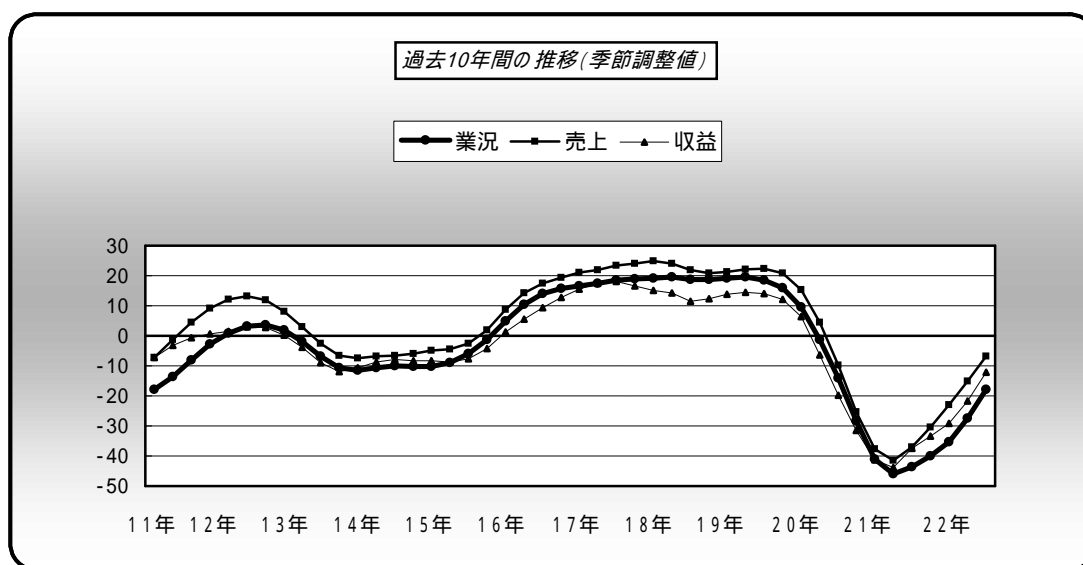
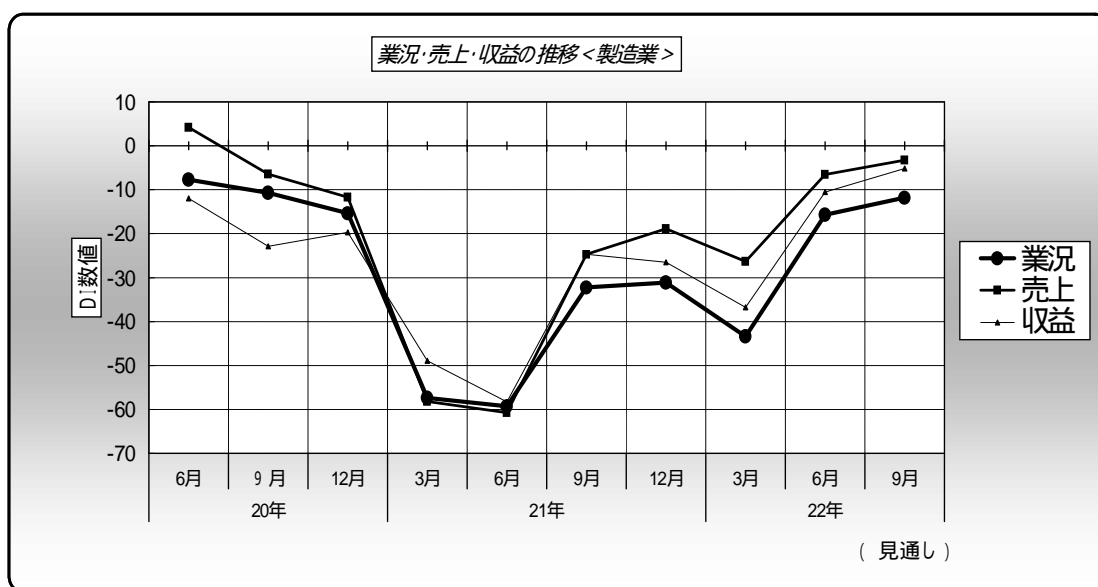


# 製造業

当期は、前期比で業況DI +27.7ポイント、売上DI +19.8ポイント、収益DI +26.3ポイントと全てのDIにおいて大幅に改善した。来期も当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいて改善の見通しとなっている。

自動車関連では、ハイブリッド車や減税対象車の販売は安定しており、9月までの受注は確保している。しかし、発注企業は、技術精度の高さより価格を重視しており、新興国の台頭で競争に拍車がかかっている。精密機器については、国内外の需要の回復などにより先行き改善の見通し。また、設備投資の抑制が続いているが、大企業を中心に省エネ機器等への関心の高まりから、今後の設備更新の動きに期待がもたれる。

食品関連では、消費者の所得減少等により購買意欲は依然低迷している。消費者の低価格志向は高く、また、商品に対する安心・安全への意識も強いため、販売業者は安価で良質な商品の提供を求められている。



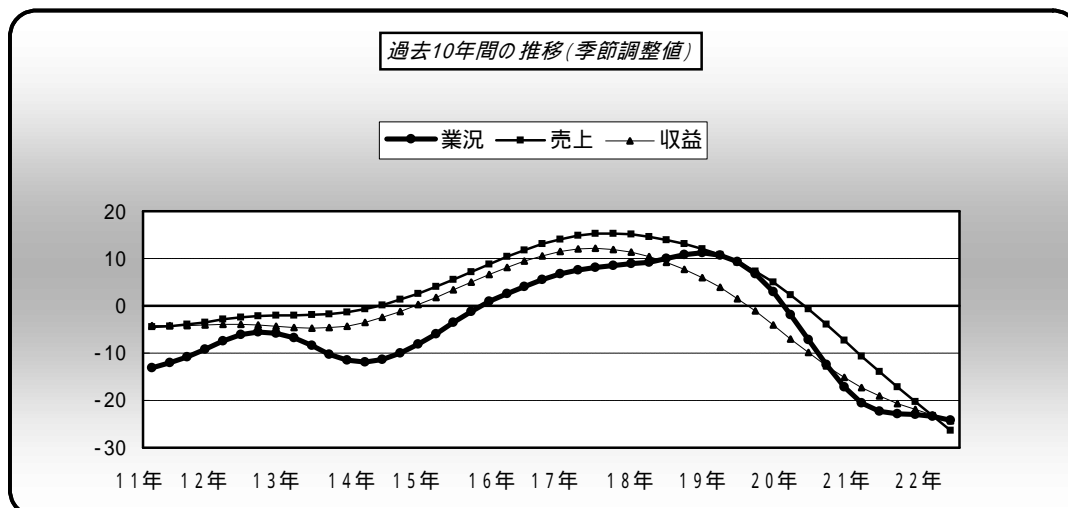
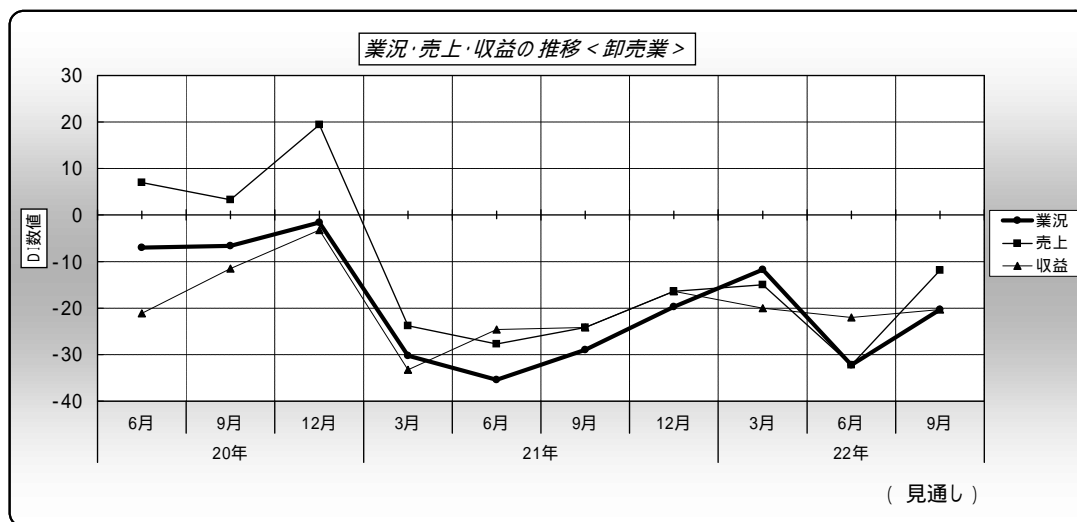
# 卸売業

当期は、前期比で業況DI 20.5ポイント、売上DI 17.2ポイント、収益DI 2.0ポイントと全てのDIにおいて低下した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいて改善の見通しとなっている。

青果卸では、4月前半までの天候不順の影響による生育不良からの品不足もあり、主力商品であるキャベツを中心に高値で推移したものの、その後、天候の安定による供給の安定に伴い価格は大きく下落している。

木材卸については、住宅着工件数は増加傾向にあるものの大規模な分譲マンションの着工が多く、木材需要は、減少している。輸入量は減少し、国産材丸太の不足感は強いが需要は伸びない状況のなか、価格の上昇は限定的となっている。大手メーカーの事業提携の影響からコスト見直しの動きもみられ、収益面で厳しい状況が続いている。

卸売業全体としては、市況は依然として低迷しており、高額商品、娯楽性の強い商品は、消費者の買い控えの傾向が強くみられる。夏場の季節商品により、一時的な売上増加は見込めるものの、今後も厳しい状況が続く見通し。



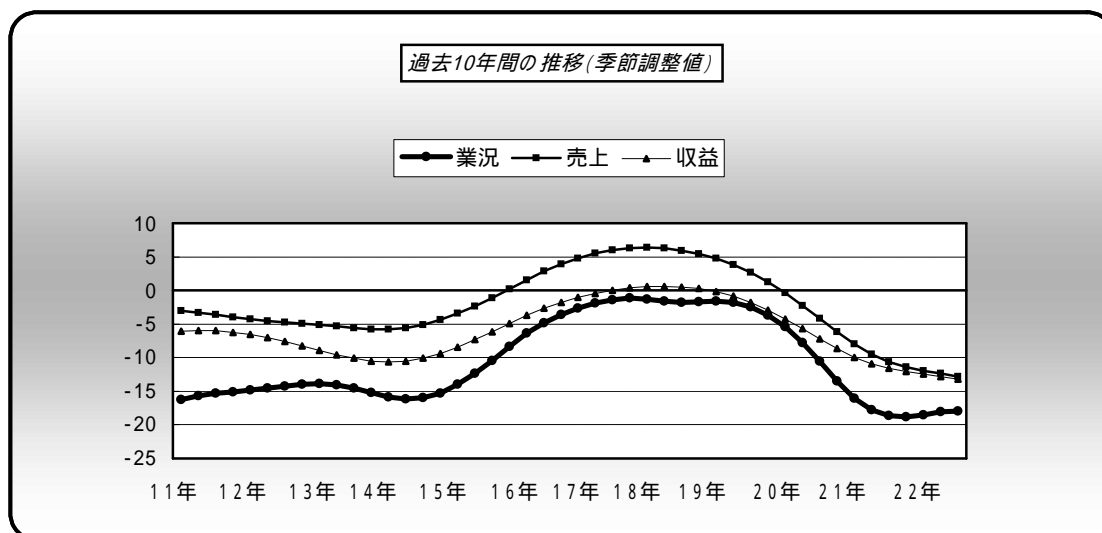
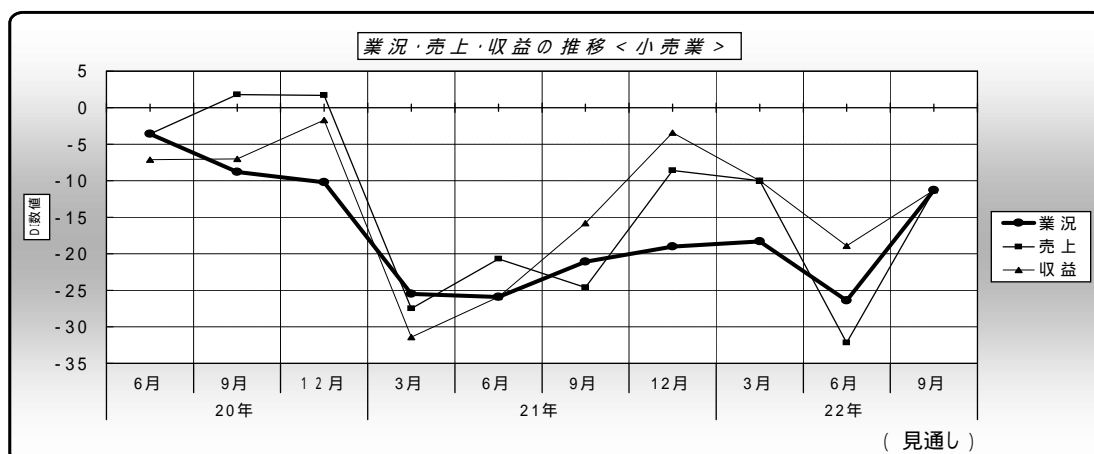
# 小 売 業

当期は、前期比で業況DI 8.1ポイント、売上DI 3.2ポイント、収益DI 8.9ポイントと全てのDIにおいて低下した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいて改善の見通しとなっている。

大型連休の間は、大手ショッピングセンターや大型レジャー施設において高い集客数を確保し、一時的な売上増加に繋がったものの、その後は例年に比べ消費動向は低調に推移している。また、家電販売については、エコポイント制度の効果が薄れてきたことなどから、売上は伸び悩んでいる。

自動車販売については、エコカー減税の恩恵は一段落した感があるが、ハイブリッド車、軽自動車の需要は安定している等、取扱車種によって売上動向に変化がみられる。

ガソリンスタンドでは、セルフスタンド間の過当競争や燃費の向上した自動車の普及によるガソリン消費量の減少等から、収益の確保は依然厳しい状況で、コンビニエンスストアとタイアップするなどして、集客力アップに繋げていく動きもみられる。



# サービス業

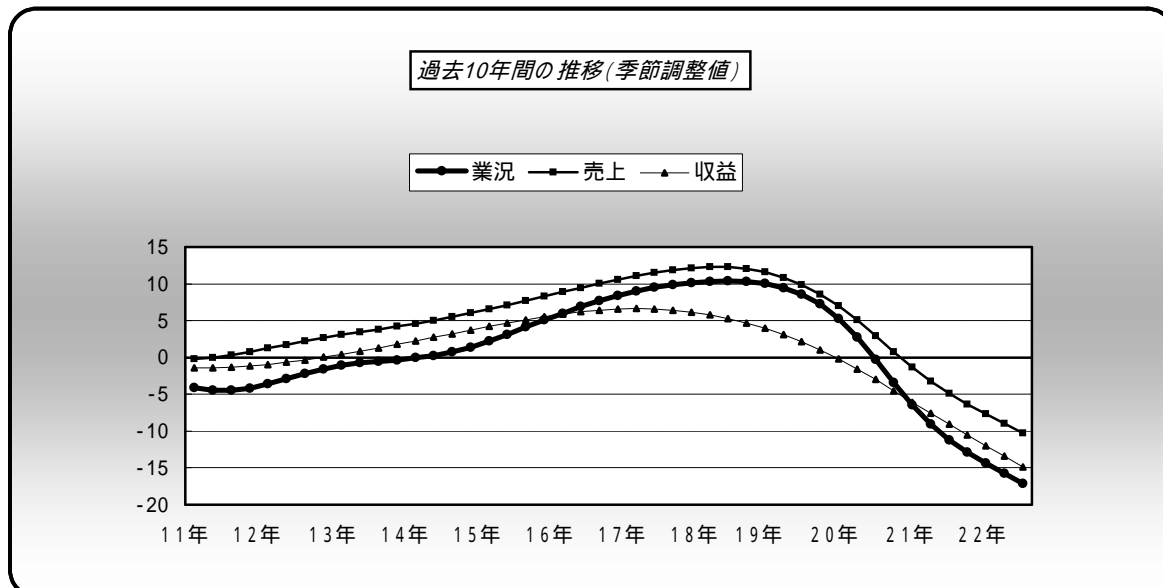
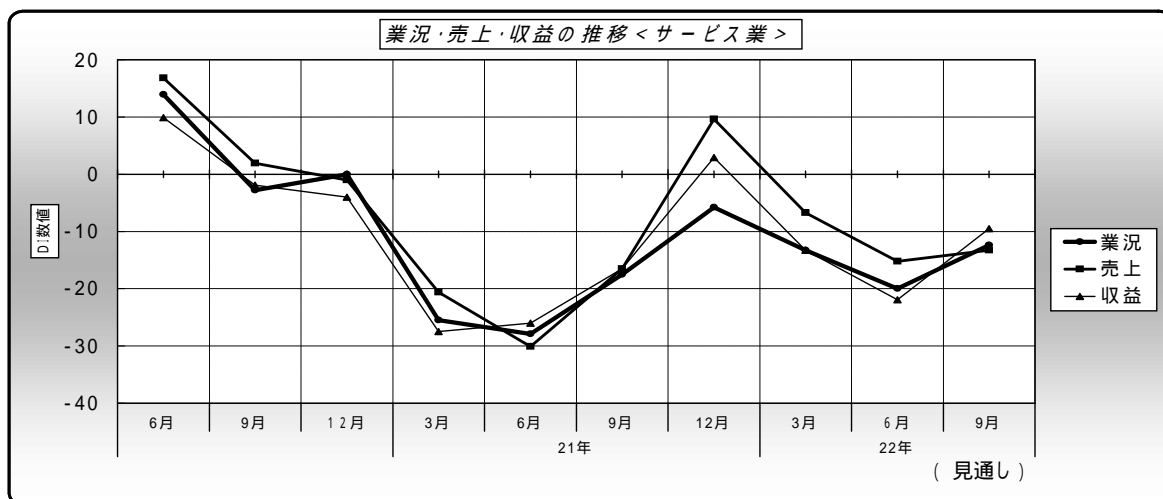
当期は、前期比で業況D! 6.7ポイント、売上D! 8.5ポイント、収益D! 8.6ポイントと全てのD!において低下した。来期は当期比で業況、売上、収益D!の全てにおいて改善の見通しとなっている。

医療・保健衛生業については、4月からの再診料引き上げの実施により、患者の受診回数減少の影響がみられたものの、医療機関にとっては、医業収入の増加となった。なお、一部の医療機関においては、積極的な設備投資の動きもみられる。

ホテル・旅館業は、景気低迷によりビジネス客を中心に利用客が落ち込んでいることに加え、新規参入による競争激化により、低価格設定を強いられ収益を圧迫している。

飲食業については、歓送迎会等による一時的な売上増加はみられたものの、節約志向から前年比で減少傾向となっている。また、例年、夏場にかけて売上は減少傾向で、厳しい状況が続く見通し。なお、本地区においてもファミリー向けおよびファストフード店の閉鎖が相次いでいる。

パチンコ業界については、売上の減少は下げ止まりがみられ、横這い傾向となっている。しかし、依然として競争が激しい状況にあり、新店舗出店も含め、収益確保が難しい状況。



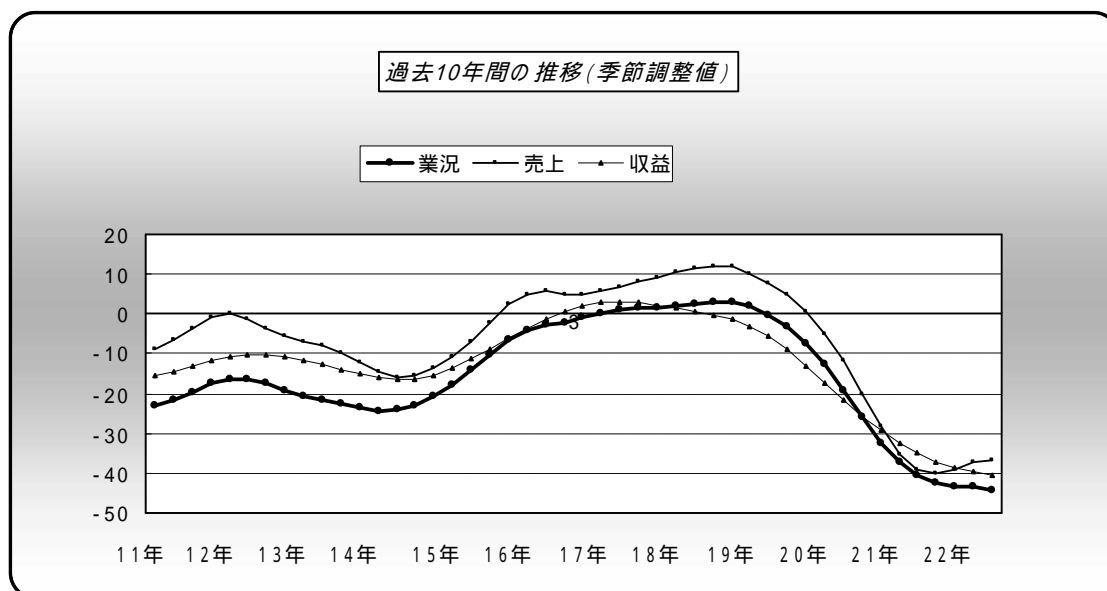
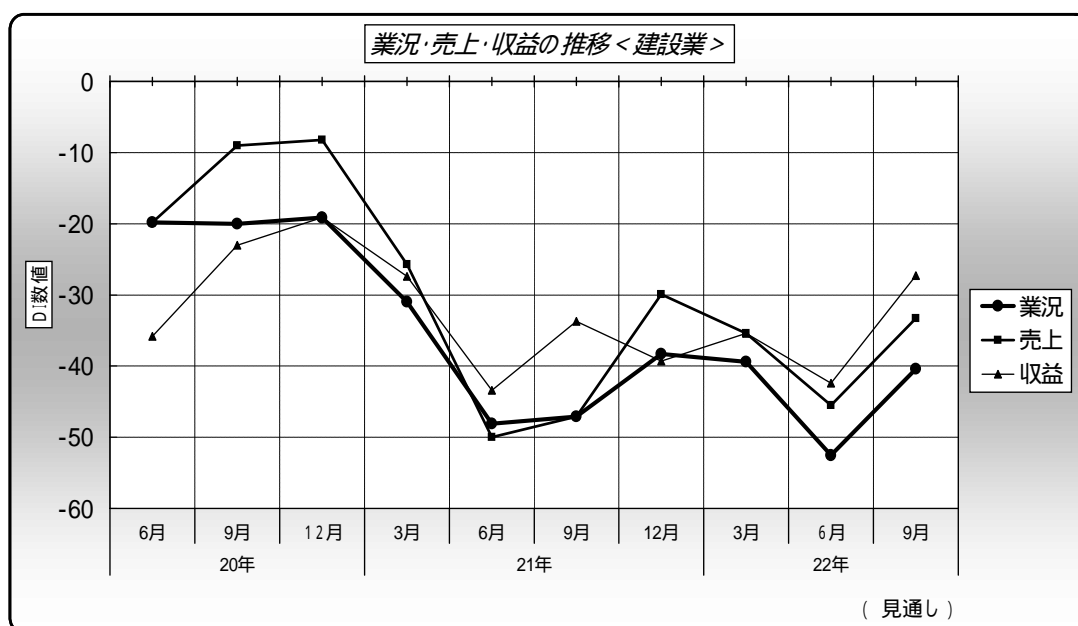
# 建設業

当期は、前期比で業況DI 13.1ポイント、売上DI 10.1ポイント、収益DI 7.0ポイントと全てのDIにおいて低下した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいて改善の見通しとなっている。

4～6月の公共工事については、例年に比べ減少傾向で、一段と厳しい状況に加え、価格競争もさらに激化しており、収益面は厳しい状況となっている。

民間工事については、製造業関係の工場等の受注が減少しており、依然低迷が続いている。現状は、増改築や耐震、補強工事等の小口工事によって、受注を確保している状況。

7月以降の受注については、公共工事は出始めているが、例年に比べ減少傾向にある。また、当地区の大型公共工事については、大手ゼネコン等で占めており、地元企業への恩恵は少なく、民間工事についても受注は減少傾向で、当面は厳しい状況が続く見通し。



## その他

### 水産業

養鰻業は、シラスの池入れ総量は例年並みとなっているものの、早期に池入れした輸入物の歩留まりが悪い状況。チリ大地震による飼料不足と天候不順もあって成育も悪く、品薄状態になる見通し。品薄により価格は上昇傾向にあるが、需要の落ち込みにより、販売価格への転嫁は難しく、収益環境は悪化している。

### 農業

キャベツ相場については、4月前半までは天候不順の影響を受け、高値で推移していたが、その後、天候の安定とともに価格は下落し、厳しい状況となっている。7月以降は、スイカとトウモロコシが主力となるが、冷夏による生育状態への影響が懸念される。

菊相場については、例年、他地域産の出荷増加から供給過多となるが、昨年の台風の影響から値崩れせず比較的安定している。夏以降、お盆やお彼岸による需要拡大が見込まれる。

### 運輸業

春先の野菜価格高騰の影響から、荷動きが鈍く、農作物輸送を中心とする業者は、低調に推移した。一般物流については、製造業が回復基調となり、持ち直しの動きが見られる。

夏野菜の生育、出荷状況により業況の回復が見込まれるが、多雨・冷夏が予想されており、影響が懸念される。収益確保のためには、コストの削減をさらに進める必要がある。

### 不動産業

住宅用地については15百万円、建売住宅については25百万円前後の比較的手頃な物件や人気の高い地区については引続き需要が見られるが、景気低迷による所得の減少等により全体としての動きは鈍い。

事業用地についても、設備投資の抑制から積極的な動きはみられず、依然低迷している。